



「内水面漁業」って、何なの

川や湖での漁業のこと

日本の国土面積は、およそ37.8万平方キロメートルです。このうち、約1万1000平方キロメートルが、川や湖を合わせた面積です。これは、日本の国土面積の約3パーセントにあたります。

川や湖にすむ魚類や貝類をとることを、「内水面漁業」といいます。また、川や湖を利用して、魚類や貝類を養殖することを、「内水面養殖業」といいます。

これに対して、海で行う漁業を、「海面漁業」といいます。

川や湖を利用して行われる漁業は、昔から、わたしたち日本人に、食料をあたえてきました。

川や湖でとれるものの中では、シジミが最も多く、サケ、マス類、アユ、ウナギなどが続きます。一方、養殖ものでは、ウナギが最も多く、ニジマス、コイ、アユがそれに次いでいます。

レジャー客の多い内水面漁業

内水面漁業では、漁業を営まないふつうの人たちが、とても多いことが特徴です。これらのつり客を「遊魚者」といいます。この人たちは、レジャーとして漁業を行う人であり、つり（遊魚）は、国民の代表的なレジャーの一つになっています。

（監修・保岡 孝之）

